

2009年第3四半期(1-9月)課税出荷数量ヘッドライン

1. 市場全体の概況

- ◆ ビール・発泡酒・新ジャンル市場は、生活防衛意識の高まりや、夏の天候不順などの影響もあり、マイナス(▲2.4%)。
- ◆ ビール市場は、生活防衛意識の高まりの影響もあり、マイナス(▲7.3%)。
- ◆ 発泡酒市場は、新ジャンル市場拡大の影響もあり、マイナス(▲15.5%)。
- ◆ 新ジャンル市場は、依然拡大を継続し、プラス(+21.9%)。構成比は29.4%。

2. キリン社概況

- ◆ ビール・発泡酒・新ジャンル計は、好調な新ジャンル(+25.4%)などの貢献により、前年並み(▲0.1%)。全てのカテゴリが業界平均以上となった。
- ◆ ビール計は、業界と同じマイナス(▲7.3%)。3月にリニューアルした「一番搾り」が、第3四半期では、2004年以来5期ぶりのプラスになるなど、好調に推移。
- ◆ 発泡酒計は、マイナス(▲10.3%)となったものの、業界平均を上回った。
- ◆ 新ジャンル計は、プラス(+25.4%)。圧倒的な存在を誇る「のどごし〈生〉」に、「コクの時間」などが上乘せになり、好調を継続。

《ビール・発泡酒・新ジャンル》

- 夏の天候不順などの影響もあったが、「一番搾り」の好調と、「のどごし〈生〉」のさらなる拡大により、ほぼ前年並み(▲0.1%)となった。全てのカテゴリが業界平均以上となり、ビール・発泡酒・新ジャンル市場に占めるシェアは、今年上半年期の37.5%から37.9%に拡大している。

《ビール》

- 3月にリニューアルした「一番搾り」が、9月までの累計販売本数で8億本を突破するなど、第3四半期までの実績では2004年以来5期ぶりとなる対前年プラス(+0.5%)と好調に推移。

《発泡酒》

- 「麒麟淡麗〈生〉」、「淡麗グリーンベル」、「淡麗W」を合わせた「淡麗シリーズ」は、1桁のマイナス(▲4.3%)と、業界全体が2桁の大幅マイナスとなる中、堅調に推移。当社の発泡酒計が、発泡酒市場に占めるシェアは、59.8%と、第3四半期としては過去最高を記録した。
- 飲食店向けの「麒麟淡麗樽詰生」は、第3四半期までの実績でプラス(+4.0%)を達成。

《新ジャンル》

- 新ジャンルカテゴリで圧倒的な販売を誇る「のどごし〈生〉」が、2005年の発売以来、第3四半期では最大となる3,377万ケースの販売を記録したことに加え、好調な販売が続く「コクの時間」、「ホップの真実」が上乘せとなり、当社の新ジャンル計は業界平均を上回った(+25.4%)。

※「一番搾り」「淡麗シリーズ」「麒麟淡麗樽詰生」の対前年比は販売数による